

報道関係 各位

龍神行政局総務課
課長 池本 収児

新元号「令和」記念
幻の熊野古道奥辺路ウォーキングツアーについて

龍の里づくり委員会では、高野山から龍神を經由し熊野本宮大社へと続く修験者の山岳信仰の道を幻の熊野古道「奥辺路」として再整備に取り組んでおります。

今回新元号「令和」と本事業のスタートを記念して幻の熊野古道奥辺路ウォーキングツアーを実施しますので、報道方よろしくお願いたします。

記

日時 令和元年5月1日（水）

行程（抜粋）

和歌山市駅（7：00）⇒ごまさんスカイタワー（10：00）→
幻の熊野古道「奥辺路」ウォーキング（護摩壇山山頂・ワイルドドライブ・衣掛岩・殿垣内経由）→大熊⇒道の駅龍神・皆瀬神社（15：45）⇒龍神温泉元湯（16：30）⇒和歌山市駅（19：30）

※ ⇒貸切バスで移動、→ウォーキングで移動

※ 募集は終了しております。

<連絡先>

龍神行政局総務課

五味、平野

TEL0739-78-0111

（内線 7533、7512）

◆幻の熊野古道 奥辺路(おくへち)◆

木の国・紀州の山の奥、日本三美人の湯のひとつ「龍神温泉」。役小角が見出し、弘法大師・空海が湯宿を開き、紀州徳川家が庇護した歴史あるこの温泉は、修験者が高野山と熊野三山を行き来する「道」の通過点でした。その道の名前は「奥辺路」。龍神村の歴史に記し伝えられず、忘れ去られたその名前を、隣町の清水町誌から我々が改めて知ったのは平成 27 年春のこと。地域の「古老」と呼ばれる人たちが現在に伝え繋いでくれていました。現在、世界遺産に登録されている「熊野古道」に数えられていませんが、「奥辺路」はその性質上、紛れもなくもう一本の「熊野古道」でした。

●熊野古道の定義●

熊野古道とは平安末期から熊野三山参詣のために通行された古い道のこと。

京都から大阪を通り海岸伝いに熊野に向かう「紀伊路(熊野街道とも)」が紀州田辺で分岐し、山中を本宮大社、那智大社、速玉大社に向かう「中辺路」と、海岸伝いに那智大社と結ぶ「大辺路」が一般に知られています。また大和国内を通過する「小辺路」、江戸時代にお伊勢参りの延長で熊野詣でに使われた「伊勢路」も熊野古道に数えられ、修験者が吉野と熊野を往来した「大峯奥駈道」も性質上、熊野古道であると考えられる場合もあります。

●奥辺路のルート●

「奥辺路」は高野山から笹の茶屋峠、護摩壇山、龍神温泉、丹生ノ川を經由し、熊野本宮大社へと続く道。今でも大部分は未舗装で古道の姿を残しています。丹生ノ川からは、平安末期、上皇の熊野参詣途上に、物資を供給するため、中辺路の近露に合流する道と、江戸時代から昭和にかけて生活道としてよく利用された、小辺路の果無峠に繋がる道に分かれます。修験の目的では、見晴らしよく、生命エネルギーに富んだ原生林を尾根伝いに歩く後者が利用されたと推測できます。

●奥辺路の意義●

「蟻の熊野詣で」と表現されたほど、立場に関わらず都から多くの人が歩き、途上にも九十九王子という信仰対象が形成された紀伊路・中辺路は、謂わば「開かれた参詣道」です。

これに対し、修験者は高野山と熊野を行き来するのに、「小辺路」という最短ルートを利用したと言われており、この「閉ざされた参詣道」も、今ではその歴史的意義と魅力から親しまれています。

しかしながら、修験の道としては、小辺路に負けず劣らず意義深い道が「奥辺路」であったと考えられています。昭和後期に奥辺路・笹の茶屋峠付近で遺構が発掘された「日光神社」は、鎌倉・室町期に最盛を誇った密教の参拝場であったことが判明したからです。また、修験者にとって役小角や空海という先達が伝説を残した秘湯・龍神温泉が「聖地」の一種と考えられていたことも理由のひとつと言えます。奥辺路が通る有田川町清水の集落に、熊野から高野山へ修験者が歩くことを「順峰」、その逆を「逆峰」という言葉として伝えられていること、龍神村南東部の山中に、安倍晴明の伝説が残されていることも、奥辺路が修験の場であったことの裏付けです。

●奥辺路のこれから●

閉塞感が蔓延した現代に、再び「巡礼」が流行していますが、古き修験の道の再発見は時代が待望した出来事なのかもしれません。「奥辺路」という秘密めいた名前と、その名に恥じない神秘的な伝承・風景は実に魅力的なものです。

今、龍神村では奥辺路を他の熊野古道と同様に、再び一般の方々に楽しんで歩いて頂けるように整備をしています。

一度忘れ去ってしまったこの道を、実はもう一本あった「幻の熊野古道」として愛して頂けるように。